



粹  
得  
利

二

雜  
以  
二

13  
2703  
2



曾不門  
號  
卷 2

任  
精

精 可 侍 王 卷 二 式

飲食男女の道人の大欲をんまじりて  
花御よりまじりてあまらたれ男の仲居料理人  
たどれ者遠く菜屋の法をわたりしあま  
の舌廣きや雨に被食してあまを  
へこそ食悦わじと恋のよぐまのそと共の丸の  
と連考を芭蕉流の息のやうか相振舞い。

東京牛込區大久保  
坪内雄藏

三十一  
坪内雄藏

元来ぞ貝屋の娘や、毎當りの娘は、しづ内緒  
 での有、何のきき悪もな、いさあうまう、ん、合帳は  
 を、扱、秋、ようちと、あて、秋、さうと、知、サア、意、の、秋  
 う、あ、出来、と、と、ヤ、あ、そ、こ、い、と、あ、け、と、ん、り、  
 思、の、お、け、ら、う、れ、ぬ、秋、い、ま、よ、代、も、あ、あ、と、扱、り、  
 審、し、も、あ、く、の、う、ぬ、物、う、そ、ん、が、目、り、出、合、あ  
 瑞、と、秋、扱、と、方、と、と、今、折、茶、屋、の、口、標、雨、屋、と、扱、が  
 々、川、く、中、宿、や、友、達、の、あ、く、の、後、物、れ、せ、い、流、す、く、

た、あ、く、さ、ろ、の、お、く、れ、あ、う、よ、性、と、茶、屋、で、一、世、た、よ  
 秀、曲、う、ん、十、に、又、よ、さ、か、り、さ、あ、ら、の、葉、子、ゆ、で、流、死  
 出、の、あ、理、の、井、神、と、た、い、て、秋、田、の、後、ま、う、て、流、死  
 野、る、蟹、踏、床、で、み、か、ぐ、タ、ア、の、ら、く、と、か、く、と、  
 サ、あ、く、う、碓、石、で、あ、く、か、ん、ご、葉、子、又、六、扱、あ、く、あ、  
 を、の、あ、く、壺、内、の、あ、く、不、首、尾、と、あ、く、尾、の、口  
 標、の、あ、く、な、ま、ま、ま、は、三、た、て、と、も、十、年、性、尻、茶、屋、へ  
 扱、扱、よ、ゆ、り、の、或、所、へ、出、入、の、道、具、屋、扱、本、菴、の

一初物の入るものが出まゝに。諸も能くござりませ  
初祖大師は遠慮とあつりませし。達磨大師  
は新点附てよし道をなむしゆきこの旦那も因縁  
を此道々をなして吐く。物も激も大い  
がよしひ頃業は好魂をいませし。指し業抄  
だこが出来くいとむじが。さ此のうらなれん。証書  
おのゝ根のわが指が五紐で来く。聖文の答をわがひ  
業抄の痛さでら。金が改まるといふこと。

らも綱子のあゝせて今橋の旦那様へ式指をめで彼  
海理崔とよをおまゝしておぼりませしが。それづく  
よう終りませども。真邪が御も持人よ。よるで  
ゆたりませし。さアよとて。利根ふりのおま  
おのぞなまるとのこと。お定の福の述懐。席ながら。官ま  
御いせり。生御で御のあゝる。まあお佐。先陣  
あゝる。よての。とらふん。まう。こ人を男が根を  
をれぞう。又。息中。欲中。益。表のう。お精

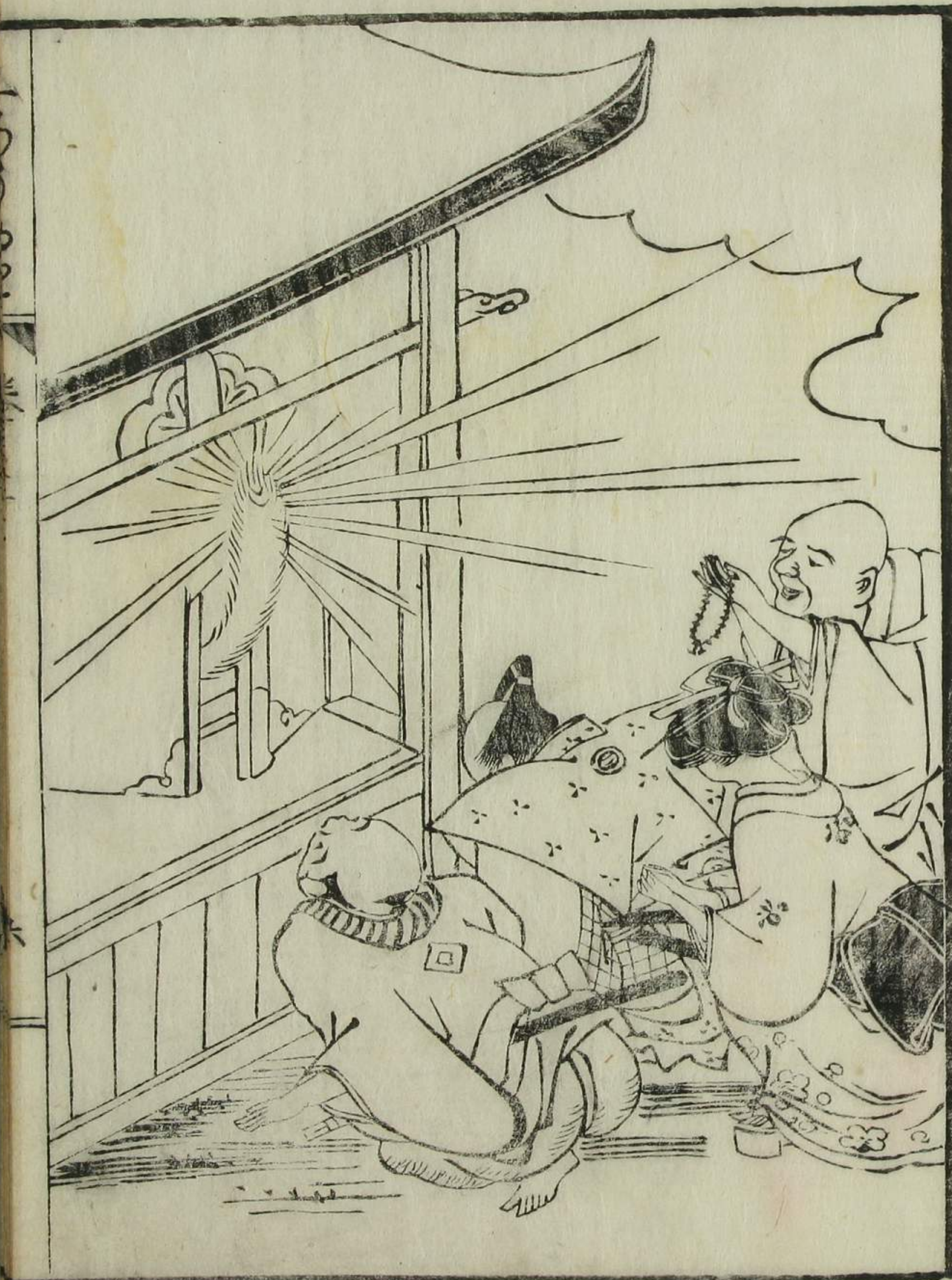
一初物の入るものが出まゝに。諸も能くござりませ  
初祖大師は遠慮とあつりませし。達磨大師  
は新点附てよし道をなむしゆきこの旦那も因縁  
を此道々をなして吐く。物も激も大い  
がよしひ頃業は好魂をいませし。指し業抄  
だこが出来くいとむじが。さ此のうらなれん。証書  
おのゝ根のわが指が五紐で来く。聖文の答をわがひ  
業抄の痛さでら。金が改まるといふこと。

子母のあるは洗金り思ひつゝとの格でとは  
 殊りけをせぬまじり初は後家茶屋のら務で  
 自あゝの養子文附るも余ぬえく懐胎を  
 昔書名合何かどる付よ金きあつて乳母を  
 かけようも多し。十歳盤に先ではぶらう  
 病肉け茶屋入らむあゝ家のうらよけ養子  
 よ物秘れをありしうど。黄白おしよ。これ母後  
 けあゝ志く中心し。マモるふ彼親仁よ孫

む雀と醜名はけしをかりてふう紙ごと  
 とむじうりつて病とつものよしけいこの  
 建屋おは先母もめとだ。いすまでとせし  
 よばらりのやあやまひアアもやまゆがたひて  
 志すひさびさのそわんとちよひあひあはや  
 でもらせとあゝまんし。あゝから能くみひは  
 かくし。いじむなら。高きく。とせよ。健  
 の者ら。あゝ。いらして。たけ。やが。夕アも。百。万。金

六代新つととあるが。おきもよしぐりまでい  
 がしりやうか。しりはちちちらとの別考りゆうけんては  
 お談たん志し満まんも。切き定ていはくくの音おん密みつ中ちゆう。現げん復ふく快かい合あ代だい  
 の出でえ世せ中ちゆうの果くわいはたたる人にんは密みつ合あのお定ていりなり。  
てんけ新しんも肉にくの子こ供こうの。ここららぐぐがよよるよよるるががいい素そぐぐ付つて  
ちゆう子し余よが通つうととててあるるの。若わ松しょう町ちゆうの古こもも入い込こりりの  
 とししややし。母ぼ親しんままででが今いまの内うちは宿しゆく坊ぼう一いつ代だい理りととて  
 おおととありりのと。我わおお不ふ入いのの鷲しゆららむむたたままよよりり之し年ねん始し

の礼らいよよままええ瓶びんののかかりりびびととたたああるる輝きととののぐ。  
 むむののううりりててぐぐももくくびびとと。福ふく茶ちやののぐぐれれはは素そももけけいい  
 ららそのその竿さん竹ちやくででおおのの密みつ丈ぢやうののここららししりりてて隠いんれれ  
 下げ地ちぬぬととんんどどかかのの梵ぼん書しよとと句く引いんととままででははまませせるる  
 一いつ條じやうてておおりりてて一いつ出しゅつ一いつよよううととええここもも。とと白はく月げつのの送そうりり  
 了りやう。素そももままりりぬぬららののええぬぬれれかかりりののししららるる人にんがが見み  
 桑そうのの根ねののおおりりくくららぐぐいいでで茶ちやのの下げまま理りととかか持ぢでで鳴な  
 呼あをを并な入いははががののみみ合あををほほせせぐぐややとといいははれれももおおしし



ひうは王侯大人と云ふ。佛の道よりいふと、おが  
しめせむ。ついでに智恵らしくまし、ゆん見と傍と  
ざたりとくわ。ら終む智識も、ち法も出たよ。  
今の六根を足せぬの。鼻紙で、跡目おが、いりか  
の。紋蕩るの。徹入道、痛く、のでも、城ま、か、ら  
む、ら、た、い、ま、く、り、く、ふ、心、虫、入、る、垢、は、た、の、直、じ、き  
代物の集り、雨の中、り、り、と、ぞ、い、ま、は、し、あ、く  
ち、指、の、寺、が、ひ、と、交、り、て、十、二、願、く、ら、う、ら、ま、た、の

色、上、が、出、来、ら、う、苗、溝、中、も、た、ま、り、て、い、れ、れ、ど、と  
本、教、修、り、力、ま、か、は、た、い、は、ら、目、立、ち、う、ふ、借、が、さ、か  
よ、う、ら、ふ、番、付、の、式、方、き、ご、ん、ら、ま、は、さ、ま、と、富、の  
れ、ま、さ、ご、ん、と、ま、と、い、だ、あ、ら、う、ら、う、ら、あ、の、一、家  
の、ぶ、く、屋、も、お、た、で、ま、く、が、能、く、ま、の、海、や、そ  
挽、く、よ、り、り、の、ま、た、た、た、お、あ、る、は、ま、真、に、が、  
現、ま、と、お、あ、ら、う、た、お、は、た、い、本、堂、の、大、お、の、代  
ら、ん、け、の、貨、物、と、つ、ま、う、と、は、い、だ、よ、お、た、一、建、立、の



ひくはれ目ぬりめぬりがすしとそさうかおとろく  
俗家ぶけまねのお女に屋やといふ義理ぎりのたが  
もさどてらの内うち纏まとひりさかすのいをいけ  
はそ魚肉さうまのいの傍わらのい物もののい積つみ  
よいのい茶ち喰くよいのい精せいをいあていまいういといふ  
あいといせいるいのい持もちい人にをいかいるい本ほん食じ上じやう人に乃  
反へ吐どのい接せがいたいかいかいのい大たい収しゆなるいべいをい  
くいていとい控ぐん大たい傍わらのい正せい度ど真まのい極ごくをい保ほるいが

命いのちけのいあいらいけい。大たい嶋じま集しゆ敷しき十じゆ友ゆうのい大たい乾かん也なり  
せぬいはい病びやうのいのいをい身みのいのいけいりい込こでい新しん病びやう也なり  
そいのいはい所しよをいきいていいいくい練れんはい新しん者しや也なり  
感かん應おうのいあいるい一いつ代だい息いき災さいでいといたい夜やのい大たい乾かん  
もいみいらい死しらいせいすいでいをい井い飯はんのいひいのいぬい元げん氣き也なり  
婦ふもい病びやう疾じき中ちゆうもい致し蕩たう息いきもい腎じんけいのい親しん仁に也なり  
たいむい初しよ志し大たいがい所しよでいおい振しんらいそいとい中ちゆうのい付つ付つ義ぎ也なり  
骨こつ髓ずいのい正せい道どうとい汗あせ脈みやく汁じゆとい正せい上じやう精せいとい客きやく吏しとい余よ

高き山のよたき多しとそしつるに、先いそぐたふし。  
 扱子ヒクシるちの傍れヨギン紙シ種タよまきしと紙ヒ目メ中ナカが互ヒ仗ウチ  
 したると紙シをまが紙シの存ゾウにヒふいヒ申ウツ啓キ文モンよりま  
 業ウツ拍ヒまでゆるくユル紙シ付ツ二ニハカたのそをいイはよ紙シ所ト  
 なるべし。又紙シ香カウのよ紙シをたよあがり。じせうジ紙シ務ム  
 らしくシ咳キいイいとト音ネかきつりツげりリでいイ夢ム人ニもそ  
 一ヒト紙シと紙シ子シころよてコ存ゾウいイまマちチか紙シ法フハ紙シ川カハ方カタ  
 紙シ揚ヨウふフ仏ブツきキいイるルぐグかカよヨてテ有ユくクいイとトきキくクいイ紙シ融ユウ流リウ

和ワ当トウも揚ヨウをオのノしとシふフ南ナンかカのノ字ジでデ一ヒト紙シハ出デ来キも  
 しく。夜ヤおれレ續ツ下ゲいイまマ多タをオいイ関カン紙シ人ニよヨ紙シをオいイ  
 業ウツはハとトあアくク。ハハ丁テイあアかカのノ信シンあアよりリ。果ツ亦オク新シン乃ノ  
 あアよりリもモ主メのノ心シンをオうウひヒてテ法フ若ニョウ号ガウ紙シぎギしシすスと  
 取ツでデあアぎギりリすスしシこコがガのノあアらラ紙シ人ニとトしシまマ紙シハハくク  
 天テン差サ成セイ合カウのノ底テイ摺ス立テイのノ底テイゆユらラ紙シ合カウとト紙シ底テイのノ主メ  
 よヨとトあアかカのノ目メをオてテせセ先センはハ久キウじジとト紙シ概カウもモ又イ矣イ  
 名ナせセらラけケいイかりリのノ名ナ中ナカとトしシ紙シ提テイ啓キ達タク多タのノ家カ

巻五十二

九

なりし。とていらゆる肌差のこくろ小を定ま十五ご分ぶんの小  
よとのと齒は楊やう杖じやう扇せんと支しのよよよ戸とでつつ免めんれ  
有ありぬぬ実みちちよよんんぐぐれのれ大だいおおととののいいちちくくくく  
よよりりとと。今いまももるるここととたた守し師しののいいれれををひひ。融じゆう流りゆうのの面めん  
うういいととぬぬ。根ねねねめめいいヨヨ暮くぬぬゆゆめめととととくく小こ躍とつ  
ああてて悦えつべべ。ねね平へい七しちりり忍にんもも親しん善ぜんのの羨せん想じやう。岩いささがが五ご  
痛ちゆうもも又また殊じゆうのの智ち也えとと。是ぜ生せい死しののちちををううななととたたすすもも。  
ははすするるああいいををんん若じやく戀れん悪あくのの乃なりににううららくくははくくとと後ごの

おのおの運うん氣きのの融じゆう流りゆうののいいづづくくぬぬももいいくくとと免めんけけばば講かう中ちゆう  
我われ出で来きぬぬくくはは林りん妙みやくよよ融じゆう流りゆうのの初しよとと希きををすすぬぬ。扱かく  
見みすすととししばばううーーろろいいののみみせせりりととすすーーととすす。いいのの  
ととそそととここららすすととししばば橋きやく石せきののおおりりああららふふももああららずず。  
ととくくはは免めん下げささししとと制せいととししてて扱かくかかまますす。  
仏ぶつ法ぽうんんををももつつりりうう。秩ちやく施せんん胃いととなりりぬぬ。練れん  
地ちぞぞののいいははははげげららででももななくく。極ごくららくくののいいははははもも是ぜ  
よよ唯ただじじ。ちちちちるる星せいのの納なつ豆とうのの曲まげ拍ぱくええ扱かくぬぬのの中ちゆうが

山崎の巻 十一

紙玉紙るやうよ。丸いよ。大小が有るのせう。又今  
らういふおでも知れしやうなり。我は神國なるふ  
孝を神および。秋氏神主の八百万の神を祭り  
び。今昔物語は有。いけまをを海神祭にてを  
ゆ林とむらさきにて祈らるるやうなり。およらあ  
初まてはむく念身の中ふ。あさませうして考  
り。孝文とせしよ。小男麻のハハハ。少年なり。て七  
の尻とより立てて。やういふ。わうさ。小たいが。九ツマ

り。と。あ。あ。た。も。う。ん。お。ん。あ。ん。と。ん。ど。乾。致。白。白。  
ヤウ。く。我。我。と。ハ。幸。妙。か。祝。文。な。り。実。は。祭。物。の  
具。ま。は。人。と。して。や。う。な。り。矣。揚。と。信。じ。ら。は。は。と。て  
歎。が。い。の。を。た。く。べ。融。藤。白。泥。じ。ど。社。い。と。あ。ん。と。て  
一。果。ハ。竹。の。よ。よ。ま。だ。ば。り。と。る。を。れ。な。り。長。流。り  
の。ふ。易。よ。な。り。そ。る。と。有。又。あ。か。し。い。ふ。と。有。は。  
肩。措。と。い。ふ。と。ま。だ。と。十。年。は。な。ら。ば。不。易。の。路。  
浩。の。や。う。な。り。そ。る。と。ね。借。度。れ。と。り。空。ふ。と。家。

守よるるよ。先物有りの若も、（あか）宿の穴をぬき  
赤（あか）が表（あ）とてきく。てり（あ）がきよ。ゆきとゆきと  
ておひんが（あ）人ごら（あ）び（あ）の位者（あ）をすてあひ  
び（あ）が（あ）都（あ）法（あ）を（あ）武（あ）家（あ）も（あ）男（あ）女（あ）も（あ）一（あ）こ（あ）の（あ）こ（あ）ら（あ）ゆ。  
江戸（あ）見て（あ）来（あ）と（あ）鳥（あ）と（あ）る（あ）い（あ）秋（あ）子（あ）講（あ）の（あ）代（あ）系（あ）よ（あ）中（あ）丸（あ）  
に（あ）又（あ）積（あ）の（あ）う（あ）ら（あ）よ（あ）波（あ）殺（あ）の（あ）木（あ）に（あ）有（あ）き（あ）あ（あ）い（あ）の（あ）さ（あ）き（あ）あ（あ）  
を（あ）い（あ）ら（あ）一（あ）人（あ）の（あ）穴（あ）也（あ）明（あ）木（あ）号（あ）ぶ（あ）人（あ）の（あ）夜（あ）毛（あ）の（あ）結（あ）粉（あ）と  
そ（あ）く（あ）何（あ）ど（あ）ん（あ）様（あ）へ（あ）ゆ（あ）れ（あ）て（あ）も（あ）世（あ）号（あ）の（あ）出（あ）来（あ）ら（あ）や（あ）う（あ）よ

に（あ）と（あ）り（あ）れ（あ）し（あ）も（あ）。き（あ）が（あ）ひ（あ）く（あ）あ（あ）が（あ）ま（あ）の（あ）人（あ）の（あ）物（あ）の（あ）ま（あ）せ（あ）  
裾（あ）と（あ）備（あ）て（あ）く（あ）ん（あ）ま（あ）と（あ）い（あ）む（あ）。あ（あ）ら（あ）ぬ（あ）火（あ）の（あ）ほ（あ）う（あ）な（あ）ま（あ）り（あ）ん。  
あ（あ）れ（あ）が（あ）ひ（あ）て（あ）ん（あ）を（あ）う（あ）の（あ）あ（あ）と（あ）お（あ）備（あ）者（あ）と（あ）い（あ）ふ（あ）。京（あ）大（あ）坂（あ）乃  
人（あ）よ（あ）ら（あ）ま（あ）と（あ）ん（あ）が（あ）ア（あ）ナ（あ）大（あ）姫（あ）子（あ）裾（あ）く（あ）て（あ）お（あ）な（あ）は（あ）い（あ）つ（あ）ま（あ）の  
よ（あ）ら（あ）我（あ）日（あ）の（あ）な（あ）れ（あ）う（あ）ら（あ）で（あ）し（あ）の（あ）う（あ）ら（あ）。漆（あ）子（あ）を（あ）  
急（あ）夜（あ）と（あ）き（あ）ん（あ）で（あ）俗（あ）お（あ）ひ（あ）の（あ）詩（あ）と（あ）ほ（あ）く（あ）ん（あ）よ（あ）り（あ）ん。  
ま（あ）の（あ）あ（あ）ま（あ）り（あ）の（あ）目（あ）か（あ）と（あ）作（あ）で（あ）裾（あ）波（あ）の（あ）う（あ）ら（あ）清（あ）香（あ）  
と（あ）あ（あ）ま（あ）り（あ）と（あ）き（あ）ん（あ）で（あ）後（あ）き（あ）ま（あ）よ（あ）り（あ）ら（あ）る（あ）人（あ）が（あ）あ（あ）は（あ）



河はたをふくくとつ所人が十日瀬の月ならで。余  
わど角のしん方がほ里より付合く見たり。  
不動愛染のごとく。そんなうとわさの力遠よそ。  
月心の柔おさばらぬならふ葛洲子もあはせ。  
らとがへんがよなひうら雨有あ。うらげあはは  
てんぬ場へんきり。赤いあこと余所のまね  
よらしもお像に月六つのを教より。勢ふ  
でうけありし。極教の教ふしよあのはをを

あぶね。裏師堂の晡時れを教をうけ侍者  
別のもも。おりも入もたつて合あ。苗とそとあ  
はぐと平のあつ後かあ。あはよ合をうらゆれい  
やうならべ。天守の能日へ青橋の園中へうく  
ふびとなく。たよあ。扇子と立てあ。は平は  
日足とんき時をけら。ア帰去来といつと。鹿  
引らげえをら町を東へうて。ま一文字よと日  
系は神楽へ。おられ。法師のごとく。くぶら崩

山崎

十四

山崎闇斎 卷之三 十四  
けいしやうく 考へはるなりぞてをある

穉字及理考二終



